

## 【参考資料】

### 岩手県立博物館の新型コロナウイルスへの対応について

新型コロナウイルス感染症の流行拡大に対応し、令和2年度から当館ではさまざまな感染拡大防止策を講じてきた。

#### 〈入館者への対応〉

前年度に引き続き博物館入口（総合受付前）での手指消毒、サーモグラフィーによる検温とマスクの着用及び連絡先提出を入館者へお願いした。

その後、10月から連絡先提出の呼びかけを休止した（岩手県の飲食店新型コロナ感染対策認証基準のうち、県が独自に求めている項目である「来店者名簿の作成」について、疫学調査の状況等に鑑み、事業者や店舗利用者の負担軽減を図るため、9月16日から当該項目の実施が必要と判断されるまでの当面の間、その運用を休止した措置に準じる）。

また、国が決定した「マスク着用の考え方の見直し等について」に基づき、令和5年3月13日からはマスクの着用について個人の主体的な選択を尊重する対応に改めた。

#### 〈各種展示室での対応〉

総合展示室や特別展示室の入口、ハンズオン展示（イヌワシのたまご）設置箇所や地形模型付近に手指消毒用アルコールを設置した。来館者が直接触れるような場所（タッチパネルやタブレット、ボタン型スイッチ、ハンズオンなど）は解説員が随時消毒を行った。

団体の受け入れは上限100名、解説員による団体解説付きの見学は上限を30名程度（学校団体の場合は1クラス）までとし、30分以内の解説時間と定め対応した。

#### 〈体験学習室の対応〉

同時の利用人数の上限を15名程度とし、団体での利用は不可とした。6月からは上限15名の範囲内であれば団体利用も可とした。

令和2年度から土日祝日と県内小中学校の長期休業期間中に限り閉室としていたが、感染状況が低水準に抑制されつつあった令和3年11月には土曜の開室を、12月には日祝日の開室も再開した。しかし、令和4年1月23日に岩手緊急事態宣言が発出されたことにより、再び平日のみの開室に戻した。

令和4年6月より土日祝日及び県内小学校の長期休業期間は60分ごとの入れ替え制（1日4回）で開室している。

その他、令和2年度からハンズオン資料の一部を撤収し消毒作業の徹底を図っているが、令和4年度も取り組みを継続した。主な消毒方法として、おもちゃ等はアルコール、身につけるコーナーの布製品は除菌剤を用いている。

#### 〈映像室の対応〉

令和2年度から定員の上限を20名（収容人数50名）とし、換気と消毒作業のため1日3回（10:10、13:10、15:10）の定時上映とした。

感染が抑制されてきた令和3年11月には1日5回に上映を増やしたが、翌年1月の岩手緊急事態宣言を機に3回上映に戻し現在に至る。

### 〈その他の施設利用について〉

受付およびミュージアムショップカウンター、サービスコーナーに透明シートまたはアクリル板を設置した。

館内の来館者が直接触れるような場所（記念スタンプコーナー、連絡先記入用机など）は随時消毒を行った。また、貸し出し用の車椅子やベビーカー、手押し車、老眼鏡、VR、視聴用器具、筆記具、クリップボードなども使用後に消毒を行った。

各階トイレ前などに手指用アルコールを設置し、常時利用できるようにした。飲食可能空間である喫茶「ひだまり」では、手指消毒用アルコール設置をはじめ、机の配置の変更やアクリル板の設置などを行った。

### 〈イベント〉

岩手県文化振興事業団自主事業として計画していた下記の集客イベントを中止した。

- ・例年5月 ゴールデンウィークスペシャルイベント
- ・例年10月 博物館まつり
- ・例年10月 ヒストリックカー&クラシックカーミーティング in 岩手県立博物館

博物館まつりは9月中旬に開催困難と判断し中止を決定。代替事業として屋外で実施する小規模イベントを行うこととし、博物館近隣の教育機関と公式HP及びSNSに限定して広報した。

当館講堂（収容人数140名）で開催する講演会や鑑賞会は定員の上限を50名程度とした。秋冬開催の考古学セミナー（講演会）やミュージアムコンサートに関しては事前申込による参加受付とし、参加者数を事前調整した。冬開催の北上川水源地域セミナー（北上川ダム統合管理事務所共催）は中止となった。しかし、秋の文化講演会と特別講演会は入館者数が見込めるため例外的に定員の上限を撤廃し当日受付で対応した。

狭小な展示室などで実施するイベント（展覧会展示解説会、県博バックヤードツアー、ワクワク！こどもツアー、ナイトミュージアム）も前年度と同様に厳しく人数制限を行い、密な環境とならないように人員整理要員を配し参加者の誘導を行った。

現地見学会（自然観察会、地質観察会）は前年度と同様に感染状況を見ながら限定的に広報し、募集人数も例年より減らすなどの措置を講じて実施した。

また、たいけん教室及び冬のワクワク！ワークショップも前年度と同様に人数制限を行い実施した。

特に、コロナ禍以前のたいけん教室は毎回50名前後（子ども20～30名と付き添いの保護者）が参加していたが、感染リスク軽減のため定員を5～10名に減じた。また、会場に飛沫防止パーテーションを設置したり、参加者ごとに消毒液を配布したりした。プログラム内容も指導を担当する解説員と参加者が適切な距離を保てるように対策を講じている。

上記のように、種々の感染拡大防止策を講じながら事業の運営にあたり、幸いにも当館の利用に起因する入館者・利用者の感染はこれまで報告されていないが、新型コロナウイルス感染症に対する効果的な感染防止策と博物館事業実施の両立を図るべく検討を重ねているところである。